

「ジャポニスム 2018：響きあう魂」 訪問の概要報告

日本弁護士連合会事務局
村上 真以

日弁連知的財産センター¹と弁護士知財ネット²では、各組織内に「ジャパンコンテンツチーム」³を設置し、調査・研究を行ってきた。この度、今世紀最大規模の日本文化発信事業である「ジャポニスム2018：響きあう魂」（以下「ジャポニスム2018」という。）が開催されているフランス共和国・パリを訪ねる機会に恵まれたことから、本イベントの（ほんの一部ではあるが）訪問の概要を報告する⁴。

1 「ジャポニスム 2018」の概要

ジャポニスム2018は、文化の都パリを中心にフランス全土で今年7月から翌2019年2月までの約8か月間にわたって開催される。

日本国内でも、最近では7月の出陣祝賀会の様子（特に、安倍総理大臣と香取慎吾さんが揃いのロゴ入り法被を着て並ぶ姿）が盛んに報じられ、また9月中旬には皇太子のフランス訪問について、日仏両国間の絹織物を通じた交流・交易の歴史にスポットライトが当たるなどしたので、ご存知の方も多数いらっしゃると思うが、まずは本イベントの概要を紹介する。

(1) 開催の経緯

2016年5月の日仏首脳会談にて、安倍総理大臣とオランダ大統領（当時）との間で開催が合意されたことによって、これほど大規模なイベント⁵の実現に至った⁶。また、今年が日仏友好160年に当たること、さらには京都・パリ友情盟約締結60周年を迎えることも後押しして、日本の国

- 1 日本弁護士連合会の知的財産法分野を所管する特別委員会。全国各地から選出された知的財産法分野を手掛ける約85名の委員・幹事によって構成される。筆者は、本年6月まで同センターの担当事務局であった。
- 2 日弁連知的財産センターの活動から派生して設置された。国内外に所在する弁護士等約1000名が加入する任意団体。
- 3 日本の文化・文物や日本的なもの（その総称として「ジャパンコンテンツ」と称している。）は、我が国のアイデンティティーを形成する要素の1つであるとともに、有形・無形の財産であり、グローバル化した社会における平和的・戦略的資源でもあるという観点から、ジャパンコンテンツを世界発信するためにその担い手の方々を在野法曹の立場からサポートするという目的で設置された専門チーム。サポートの前提として、我々自身がジャパンコンテンツを的確に理解しているかも問われることから、同チームメンバーの弁護士の意を受けて本イベントの様子をレポートすることとなった次第である。
- 4 なお、本報告の内容は、筆者個人の見解に基づくものであり、日本弁護士連合会の見解ではない。
- 5 読売新聞（2018年9月17日朝刊・社説）によれば、「日本政府が40億円を投じた過去最大規模の海外文化事業」であるという。

宝や重要文化財を含む傑作の数々が展示される運びとなった。また、オリンピック・パラリンピック開催都市である東京都とパリ市による文化タンドム事業も、特別企画としてジャポニスム2018に参加している。

企画に当たっては、国際交流基金の中に設置された事務局を中心に、両国の政府及び文化機関、民間企業の協働により、開催準備が進められてきた。

(2) コンセプト

「ジャポニスム」と聞くと、19世紀にヨーロッパで始まった「日本趣味」の流行—万国博覧会への出品等をきっかけとして日本美術が注目されはじめ、フィンセント・ファン・ゴッホやクロード・モネ等のフランスに集った芸術家たちに多大な影響を与えた一大潮流—を思い浮かべる方も多いだろう。

それから数世紀を経て開催されるジャポニスム2018は、現代日本が創造するジャポニスムでもって「世界はふたたび、日本文化に驚く。」⁷ことにより、新たな文化の創造や幅広い国民交流に向けた刺激となることが企図されている。副題の“響きあう魂”には、異なる価値観の調和を尊ぶ日本ならではの「美意識」を世界に紹介し、文化芸術を通して、日本という国への共鳴を世界に広げるといった思いが込められているという。

古今東西を問わず選りすぐりの美術作品がパリ市内に集結することに加え、秋以降には展覧会だけではなく、歌舞伎・能楽・狂言・文楽等の伝統芸能や現代劇といった舞台公演、映像作品上映も行われるほか、今や日本文化の代名詞の1つでもある日本食を楽しむセミナー等の開催も予定されている。会期を通じて50以上の公式企画が実施されるので、本レポート末尾の公式パンフレット掲載の日程表（2018年7月時点）を参照されたい。

このように個別の作家やジャンルの展示ではなく、日本文化を多様な角度から紹介するプログラムとなったのには、「日本の美意識」そのものを提示し、それが世界に浸透していくことによって、日本のソフト・パワーを高めることにある⁸。

2 「ジャポニスム 2018」の代表的なイベント

ジャポニスム2018では、50以上の公式企画で日本文化の多彩な魅力を取り上げる。その中の代表的なイベントを紹介したい。

(1) 展覧会

① 「若冲—<動植綵絵>を中心に」展（2018年9月15日～10月14日）

パリ市立プティ・パレ美術館で1か月にわたって開催が予定される。

6 合意に先立って「日本博の開催」を提案した「日本の美」総合プロジェクト懇談会の座長を務め、ジャポニスム2018の公式企画の1つである「深みへ—日本の美意識を求めて—」展のコンセプトを提唱した津川雅彦氏は、その開催を見届けるように8月にこの世を去った。

7 ジャポニスム2018のウェブサイトやパンフレットに掲げられているキャッチフレーズ。

8 日仏両国間には先例があり、フランス国内における日本文化の発信拠点であるパリ日本文化会館は、1997年に日仏の官民協同により設立された。その目的の1つには、創設が決定した1982年当時には両国間には深刻な貿易摩擦が生じていたが、日本は経済だけではなく豊かな文化を有する国であるということを伝えるためでもあったという。http://www.designstoriesinc.com/special/interview_japonismes2018/